

草の根技術協力（地域活性型）案件概要表

I. 事業の概要	
1. 対象国名	モンゴル国
2. 案件名	積雪寒冷地における道路の維持管理手法の技術移転と道路技術者育成プログラムの構築に関するプロジェクト
3. 事業の背景と必要性	モンゴルの国道の延長は約 14.9 千 km で、そのうち舗装延長は 7.7 千 km と、舗装率は約 52%にとどまる（2021 年時点）。一方で、地方道路を含む全国道路網では舗装率が 1 桁台にとどまり、都市周辺を除く多くの地域では凍上や凍結融解による路面損傷が頻発し、ひび割れ・凹凸・ポットホールが交通の安全性と物流の効率性を大きく妨げている。特にウランバートル市の生活道路では、路床土の凍上性評価が行われていないまま施工されている例が多く、地盤の膨張に起因する損傷が恒常化している。また、モンゴルでは体系的な「点検・診断・措置・記録」の維持管理サイクルや優先順位付けの基準が整備途上にあり、補修は対症療法的で再発防止に至らない状況が続く。 こうした課題を踏まえ、本事業ではウランバートル市道路開発局に舗装平たん性測定装置や地盤剛性評価装置を導入し、道路管理システムを構築するとともに、凍上性判定を含む技術者育成を行う。これにより、国道および市内道路の修繕優先順位の合理化、長寿命化、交通の安全性向上を図る。
4. プロジェクト目標	ウランバートル市の道路建設に携わる技術者が積雪寒冷地における道路の維持管理手法を理解する。また、モンゴル国の教育機関に道路技術者を育成する教育プログラムを構築する。 指標：ウランバートル市の道路の維持管理に資する、舗装の平たん性マップが作成される。また、モンゴル国の教育機関で道路の維持管理ならびに土の凍上現象に関する講義が実施される。
5. 対象地域	首都ウランバートル市
6. 受益者層 (ターゲットグループ)	直接受益者：ウランバートル市道路開発局（RDACC）のスタッフ、新モンゴル高専技術カレッジ（NMCT）の教員および学生 間接受益者：ウランバートル市道路建設従事者
7. 生み出すべきアウト プット及び活動	<アウトプット> 1. RDACC のスタッフが、積雪寒冷地における道路の維持管理技術に関する基礎知識を身に付ける。 2. RDACC に、舗装の平たん性を計測する装置と路床・路盤の剛性を計測する装置が導入され、道路の維持管理に持続的に運用される。 3. モンゴル国の教育機関で、道路の維持管理ならびに土の凍上現象に関する講義が実施され、道路の上層部分である舗装と下層部分である路床の凍上対策に関する知識と技術をシームレスに学んだ技術者が持続的に輩出されるようになる。 <活動>

	1. RDACC 職員の道路維持管理技術に関する知識・理解の向上 2. RDACC における舗装点検・健全性診断能力の強化 3. NMCT における道路維持管理・凍上現象教育体制の構築
8. 実施期間	(西暦) 2026 年 5 月～ 2029 年 4 月 (3 年 0 ヶ月)
9. 事業費概算額	約 60,000 千円
10. 相手国側実施機関 (カウンターパート)	ウランバートル市道路開発局 (RDACC) 、新モンゴル高専技術カレッジ (NMCT)
Ⅱ. 団体の概要	
1. 実施団体／指定団体	北見市／北見国際技術協力推進会議／北見工業大学
2. 主な活動内容	北見国際技術協力推進会議は、北見市、北見工業大学、日本赤十字北海道看護大学、農漁業協同組合、医師会など、オホーツク圏域の産学官 21 団体で構成される組織である。北見市を事務局として、技術研修や留学生支援を通じた国際協力を推進しており、これまで JICA の技術協力事業や青年研修事業を受託して専門家派遣や研修員受入れを実施してきた。また、地域住民と外国人が交流する「オホーツク国際ふれあい広場」を開催し、国際理解の促進、人材育成、地域の国際化にも取り組んでいる。